

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2021年9月14日
【四半期会計期間】	第44期第2四半期(自 2021年5月1日 至 2021年7月31日)
【会社名】	株式会社トリケミカル研究所
【英訳名】	Tri Chemical Laboratories Inc.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 太 附 聖
【本店の所在の場所】	山梨県上野原市上野原8154番地217
【電話番号】	0554-63-6600
【事務連絡者氏名】	取締役 鈴木 欣 秀
【最寄りの連絡場所】	山梨県上野原市上野原8154番地217
【電話番号】	0554-63-6600
【事務連絡者氏名】	取締役 鈴木 欣 秀
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第43期 第2四半期 連結累計期間	第44期 第2四半期 連結累計期間	第43期
会計期間	自 2020年2月1日 至 2020年7月31日	自 2021年2月1日 至 2021年7月31日	自 2020年2月1日 至 2021年1月31日
売上高 (千円)	4,812,155	5,367,109	9,801,982
経常利益 (千円)	2,296,682	2,448,794	4,323,329
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (千円)	1,796,421	1,881,615	3,377,281
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	1,658,157	2,064,577	3,473,113
純資産額 (千円)	10,787,003	19,074,767	12,601,389
総資産額 (千円)	17,450,595	25,460,325	19,867,759
1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	57.49	58.20	108.08
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)			
自己資本比率 (%)	61.8	74.9	63.4
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	1,354,979	2,118,087	2,090,384
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	1,286,487	460,841	2,963,827
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	196,711	3,442,572	948,342
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (千円)	1,882,607	6,815,108	1,698,612

回次	第43期 第2四半期 連結会計期間	第44期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 2020年5月1日 至 2020年7月31日	自 2021年5月1日 至 2021年7月31日
1株当たり四半期純利益 (円)	29.83	28.85

(注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

4 当社は、2021年2月1日付で普通株式1株につき4株の割合で株式分割を行いました。これに伴い、第43期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり四半期(当期)純利益を算定しております。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、経営者が連結会社の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に重要な影響を与える可能性があると認識している主要なリスクの発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、現時点においては当社グループの事業活動における新型コロナウイルス感染症の影響は限定的であります。今後当該感染症が各国の経済動向や、当社グループ及び顧客におけるサプライチェーンに与える影響等につきましては、引き続き注視を続けてまいります。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 経営成績の分析

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、製造業においては輸出の増加等を背景に業績回復の兆候もみられ、設備投資についても持ち直しを見せてはいるものの、新型コロナウイルス感染症の再拡大により先行きの不透明感は増してきており、多くの非製造業企業の業績や個人消費については、大きく落ち込んだ水準のまま推移しております。

一方、当社グループの主要な販売先であります半導体業界におきましては、広範な用途にわたり需給が逼迫しており、5Gやデータセンター等、情報通信技術の拡大に向けた先端半導体の需要につきましても継続して高い水準を維持しております。

このような状況下、当社グループといたしましては、日本・台湾・韓国を中心とする東アジア地域に向けて、顧客からの需要の増加に応えるべく生産設備の導入や人員増強等を行うとともに、時差通勤・シフト勤務等を行うことで、感染防止に努めながらも生産性の向上及び新規製品製造のための体制構築を積極的に図ってまいりました。

また、中期経営計画における経営方針に基づき、半導体製造用化学化合物の生産・開発能力の向上を一層推し進め、海外を中心とした新規材料の需要増に即応できる体制を整えることが最優先の課題であると認識し、台湾における子会社の工場立ち上げと各種認証の取得、国内におきましては生産・品質管理体制の一層の強化に努めてまいりました。

一方、利益面に関しましても、収益性を維持しながら持続的な成長を図るため、全社を挙げての経費削減に継続して取り組み、一層の収益向上を図ってまいりました。

その結果、売上高は5,367,109千円(前年同期比11.5%増)、営業利益は1,457,735千円(同5.8%減)となり、また、韓国関係会社SK Tri Chem Co., Ltd.に係る持分法による投資利益の計上等により、経常利益は2,448,794千円(同6.6%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は1,881,615千円(同4.7%増)となりました。

なお、当社グループの事業は、半導体等製造用高純度化学化合物事業並びにこれらの付帯業務の単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。

(2) 財政状態の分析

(流動資産)

当第2四半期連結会計期間末における流動資産の残高は、前連結会計年度末比5,381,473千円増加し、12,966,179千円となりました。その主な要因は、公募による新株式の発行により現金及び預金が増加したこと等によるものであります。

(固定資産)

当第2四半期連結会計期間末における固定資産の残高は、前連結会計年度末比211,093千円増加し、12,494,146千円となりました。その主な要因は、持分法による投資利益の計上により、投資有価証券が増加したこと等によるものであります。

(流動負債)

当第2四半期連結会計期間末における流動負債の残高は、前連結会計年度末比399,895千円減少し、2,890,564千円となりました。その主な要因は、短期借入金が減少したこと等によるものであります。

(固定負債)

当第2四半期連結会計期間末における固定負債の残高は、前連結会計年度末比480,915千円減少し、3,494,993千円となりました。その主な要因は、長期借入金が減少したこと等によるものであります。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産の残高は、前連結会計年度末比6,473,377千円増加し、19,074,767千円となりました。その主な要因は、公募による新株式の発行により資本金及び資本剰余金が増加したこと、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上により利益剰余金が増加したこと等によるものであります。

(3) キャッシュ・フローの状況の分析

当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ5,116,495千円増加し、6,815,108千円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は2,118,087千円(前年同期比763,108千円の収入の増加)となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益の計上2,448,794千円、利息及び配当金の受取額678,003千円等のプラス要因が、持分法による投資利益799,852千円、法人税等の支払額597,315千円等のマイナス要因を上回ったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果支出した資金は460,841千円(同825,645千円の支出の減少)となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出417,487千円等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果得られた資金は3,442,572千円(同3,245,861千円の収入の増加)となりました。これは主に、株式の発行による収入4,909,454千円によるものであります。

(4) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題について重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間の研究開発費の総額は253,677千円であります。

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等は行われておりません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	108,960,000
計	108,960,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間 末現在発行数(株) (2021年7月31日)	提出日現在 発行数(株) (2021年9月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	32,498,640	32,498,640	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数 100株
計	32,498,640	32,498,640		

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2021年7月31日		32,498,640		3,278,912		3,179,912

(5) 【大株主の状況】

2021年7月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式 (自己株式を 除く。)の 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
竹中 潤平	神奈川県相模原市南区	4,163,840	12.81
(株)日本カストディ銀行(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8-12	3,837,900	11.80
日本マスタートラスト信託銀行(株) (信託口)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	1,818,000	5.59
(株)山梨中央銀行	山梨県甲府市丸の内1丁目20-8	1,400,000	4.30
トリケミカル研究所従業員持株会	山梨県上野原市上野原8154-217	857,200	2.63
(株)日本カストディ銀行(証券投資 信託口)	東京都中央区晴海1丁目8番12号	695,000	2.13
(株)日本カストディ銀行(信託口 9)	東京都中央区晴海1丁目8-12	592,200	1.82
斎藤 隆	神奈川県相模原市南区	400,040	1.23
(株)SBI証券	東京都港区六本木1丁目6番1号	355,540	1.09
JP MORGAN CHASE BANK 385781 (常任代理人 (株)みずほ銀行決済 営業部)	25 BANK STREET, CANARY WHARF, LONDON, E14 5JP, UNITED KINGDOM (東京都港区港南2丁目15-1 品川イン ターシティA棟)	350,034	1.07
計		14,469,754	44.52

(注) みずほ証券(株)から2021年6月22日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書(変更報告書No. 3)により、2021年6月15日現在で以下の株式を保有している旨が記載されているものの、当社として2021年7月31日現在における実質所有株式数の確認ができませんので、上記「大株主の状況」では考慮しておりません。なお、その大量保有報告書(変更報告書No. 3)の内容は以下のとおりであります。

氏名又は名称	住所	保有株券等の数 (株)	株券等保有割合 (%)
アセットマネジメントOne(株)	東京都千代田区丸の内一丁目8番2号	1,927,700	5.93
アセットマネジメントOneインター ナショナル(Asset Management One International Ltd.)	Mizuho House, 30 Old Bailey, London, EC4M 7AU, UK	57,500	0.18

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2021年7月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 1,500		権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
完全議決権株式(その他)	普通株式 32,479,500	324,795	同上
単元未満株式	普通株式 17,640		同上
発行済株式総数	32,498,640		
総株主の議決権		324,795	

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式80株が含まれております。

【自己株式等】

2021年7月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) (株)トリケミカル研究所	山梨県上野原市上野原 8154番地217	1,500		1,500	0.0
計		1,500		1,500	0.0

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(2021年5月1日から2021年7月31日まで)及び第2四半期連結累計期間(2021年2月1日から2021年7月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年1月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年7月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,698,612	6,815,108
受取手形及び売掛金	2,783,207	3,011,288
電子記録債権	1,119,212	851,328
商品及び製品	13,422	105,474
仕掛品	713,613	838,072
原材料及び貯蔵品	881,878	1,121,749
その他	374,759	223,156
流動資産合計	7,584,706	12,966,179
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	5,020,683	5,129,645
減価償却累計額	1,233,191	1,364,424
建物及び構築物（純額）	3,787,491	3,765,221
機械装置及び運搬具	2,669,674	3,001,726
減価償却累計額	1,429,693	1,560,979
機械装置及び運搬具（純額）	1,239,980	1,440,746
工具、器具及び備品	2,195,213	2,469,197
減価償却累計額	1,452,432	1,572,396
工具、器具及び備品（純額）	742,780	896,800
土地	714,933	714,933
その他	1,556,937	1,183,600
減価償却累計額	162,616	201,106
その他（純額）	1,394,320	982,493
有形固定資産合計	7,879,507	7,800,195
無形固定資産	208,508	188,366
投資その他の資産		
投資有価証券	4,147,328	4,408,006
その他	47,708	97,576
投資その他の資産合計	4,195,036	4,505,583
固定資産合計	12,283,053	12,494,146
資産合計	19,867,759	25,460,325

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年1月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年7月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	525,821	560,220
短期借入金	¹ 580,000	
1年内返済予定の長期借入金	615,547	² 737,790
未払法人税等	593,172	618,238
賞与引当金	76,084	118,208
その他	899,835	856,107
流動負債合計	3,290,460	2,890,564
固定負債		
長期借入金	² 3,160,646	² 2,725,833
退職給付に係る負債	102,327	106,477
その他	712,935	662,682
固定負債合計	3,975,908	3,494,993
負債合計	7,266,369	6,385,557
純資産の部		
株主資本		
資本金	808,912	3,278,912
資本剰余金	709,912	3,179,912
利益剰余金	11,062,738	12,413,154
自己株式	1,720	1,720
株主資本合計	12,579,843	18,870,259
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	168	70
為替換算調整勘定	38,500	219,564
退職給付に係る調整累計額	16,785	15,127
その他の包括利益累計額合計	21,545	204,508
純資産合計	12,601,389	19,074,767
負債純資産合計	19,867,759	25,460,325

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年2月1日 至 2020年7月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年2月1日 至 2021年7月31日)
売上高	4,812,155	5,367,109
売上原価	2,424,506	3,010,714
売上総利益	2,387,649	2,356,395
販売費及び一般管理費	840,473	898,659
営業利益	1,547,176	1,457,735
営業外収益		
受取利息	52	70
受取配当金	171	196
持分法による投資利益	755,448	799,852
その他	71,548	240,544
営業外収益合計	827,220	1,040,664
営業外費用		
支払利息	16,598	17,043
株式交付費		30,545
為替差損	48,502	
その他	12,614	2,016
営業外費用合計	77,714	49,606
経常利益	2,296,682	2,448,794
税金等調整前四半期純利益	2,296,682	2,448,794
法人税、住民税及び事業税	496,401	606,727
法人税等調整額	3,859	39,549
法人税等合計	500,261	567,178
四半期純利益	1,796,421	1,881,615
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,796,421	1,881,615

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年2月1日 至 2020年7月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年2月1日 至 2021年7月31日)
四半期純利益	1,796,421	1,881,615
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	7,614	239
為替換算調整勘定	3,031	31,955
退職給付に係る調整額	1,934	1,658
持分法適用会社に対する持分相当額	144,780	149,109
その他の包括利益合計	138,263	182,962
四半期包括利益	1,658,157	2,064,577
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,658,157	2,064,577
非支配株主に係る四半期包括利益		

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年2月1日 至 2020年7月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年2月1日 至 2021年7月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	2,296,682	2,448,794
減価償却費	358,535	487,154
賞与引当金の増減額(は減少)	40,436	41,868
受取利息及び受取配当金	224	267
支払利息	16,598	17,043
株式交付費		30,545
持分法による投資損益(は益)	755,448	799,852
投資有価証券評価損益(は益)	9,772	
売上債権の増減額(は増加)	468,349	47,607
たな卸資産の増減額(は増加)	286,002	455,270
仕入債務の増減額(は減少)	83,637	26,895
未払又は未収消費税等の増減額	2,590	163,670
未払金の増減額(は減少)	113,246	34,734
その他の流動資産の増減額(は増加)	31,344	1,474
その他の流動負債の増減額(は減少)	44,104	82,276
その他の固定負債の増減額(は減少)	824	4,150
その他	23,160	73,306
小計	1,504,079	2,054,568
利息及び配当金の受取額	308,008	678,003
利息の支払額	16,597	17,169
法人税等の支払額	440,510	597,315
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,354,979	2,118,087
投資活動によるキャッシュ・フロー		
投資有価証券の取得による支出	600	600
有形固定資産の取得による支出	1,258,238	417,487
無形固定資産の取得による支出	27,648	42,754
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,286,487	460,841
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	500,000	580,000
長期借入れによる収入	500,000	
長期借入金の返済による支出	309,162	312,570
リース債務の返済による支出	40,677	43,981
株式の発行による収入		4,909,454
配当金の支払額	453,448	530,329
財務活動によるキャッシュ・フロー	196,711	3,442,572
現金及び現金同等物に係る換算差額	1,087	16,676
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	264,116	5,116,495
現金及び現金同等物の期首残高	1,618,491	1,698,612
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,882,607	6,815,108

【注記事項】

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響に関する会計上の見積り)

前連結会計年度の有価証券報告書において、追加情報に記載した新型コロナウイルス感染拡大の影響に関する仮定について重要な変更はありません。

(四半期連結貸借対照表関係)

- 1 当社グループは、運転資金の効率的な調達を行うことを目的として、取引銀行5行と当座貸越契約を締結しております。当該契約に基づく借入未実行残高等は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2021年1月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年7月31日)
当座貸越極度額	3,000,000千円	3,000,000千円
借入実行残高	580,000 "	"
差引額	2,420,000千円	3,000,000千円

- 2 当社グループは、今後の事業展開における資金需要に対し、機動的かつ安定的な資金調達手段を確保することを目的として、取引銀行2行とシンジケートローン契約を締結しております。当該契約に基づく借入未実行残高等は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2021年1月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年7月31日)
シンジケートローンの総額	3,000,000千円	3,000,000千円
借入実行残高	2,500,000 "	2,500,000 "
差引額	500,000千円	500,000千円

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年2月1日 至 2020年7月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年2月1日 至 2021年7月31日)
賞与引当金繰入額	32,531千円	27,948千円
退職給付費用	5,718 "	5,053 "
研究開発費	246,677 "	253,677 "

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年2月1日 至 2020年7月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年2月1日 至 2021年7月31日)
現金及び預金	1,882,607千円	6,815,108千円
預入期間が3か月を超える定期預金	"	"
現金及び現金同等物	1,882,607千円	6,815,108千円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 2020年2月1日 至 2020年7月31日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2020年4月24日 定時株主総会	普通株式	453,084	58	2020年1月31日	2020年4月27日	利益剰余金

2 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日
後となるもの

該当事項はありません。

3 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 2021年2月1日 至 2021年7月31日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2021年4月27日 定時株主総会	普通株式	531,200	68	2021年1月31日	2021年4月28日	利益剰余金

(注)当社は、2021年2月1日付で普通株式1株につき4株の割合で株式分割を行っておりますが、上記は当該株式
分割前の株式数で記載しております。

2 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日
後となるもの

該当事項はありません。

3 株主資本の著しい変動

2021年2月24日で払込が完了した公募による新株式の発行1,250,000株により、資本金が2,470,000千円、資本準備金が2,470,000千円増加しております。

この結果、当第2四半期連結会計期間末において、資本金が3,278,912千円、資本剰余金が3,179,912千円となっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社グループの事業は、半導体等製造用高純度化学化合物事業並びにこれらの付帯業務の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(1 株当たり情報)

1 株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第 2 四半期連結累計期間 (自 2020年 2 月 1 日 至 2020年 7 月31日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 2021年 2 月 1 日 至 2021年 7 月31日)
1 株当たり四半期純利益	57円49銭	58円20銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(千円)	1,796,421	1,881,615
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益 (千円)	1,796,421	1,881,615
普通株式の期中平均株式数(株)	31,247,228	32,331,314

- (注) 1 潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
2 当社は、2021年 2 月 1 日付で普通株式 1 株につき 4 株の割合で株式分割を行いました。これに伴い、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1 株当たり四半期純利益を算定しております。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2021年9月14日

株式会社 トリケミカル研究所
取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人
東京事務所

指定有限責任社員 公認会計士 中 村 和 臣
業 務 執 行 社 員

指定有限責任社員 公認会計士 伊 藤 正 広
業 務 執 行 社 員

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社トリケミカル研究所の2021年2月1日から2022年1月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2021年5月1日から2021年7月31日まで）及び第2四半期連結累計期間（2021年2月1日から2021年7月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社トリケミカル研究所及び連結子会社の2021年7月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。

- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。

- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。